

トピック まなづるの海

真鶴の海の天使～ダンゴウオ～



ダンゴウオの幼魚。頭の「天使の輪」模様(矢印)がもうすでに消え始めている(3月13日撮影)。

春の訪れが待ち遠しいこの時期、ダイバーに人気なのが、「天使の輪」を持つダンゴウオの幼魚。「天使の輪」というのは頭にあるリング状の模様の通称で、成長に伴って消えてしまうため、ふ化後1ヶ月くらいのわずかな期間しか見ることができません。全長わずか1-2mmのダンゴウオの幼魚を水中で探すのは大変で、さらに、ほとんど肉眼では確認できないこの「天使の輪」をうまく撮影するのは困難を極めます。しかし、この期間限定のレアさ、そして何と言ってもそのかわいさのおかげで、写真に収められた喜びはひとしおです。そんなところもダンゴウオ人気の秘密かもしれません。

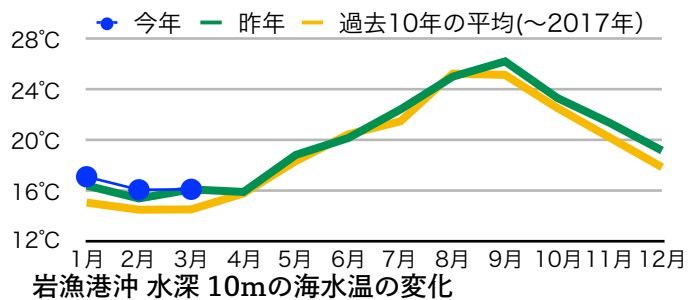
真鶴周辺では、ダンゴウオは普段は少し深い場所で暮らしていて、水温が下がる12月頃に産卵のため浅い場所に移動してくると考えられています。岩のくぼみなど産みつけられた卵は、ふ化するまで雄が守ります。幼魚はふ化してしばらくは海藻の上で見られますが、「天使の輪」が消える頃、徐々に深場へと移動し姿を消します。産卵のために深場と浅場を移動するこの生活スタイルは、ダンゴウオの他にアンコウなどでも知られています。深場と浅場で水温差が小さくなる冬は深場の魚が移動しやすく、また、春は浅い海に食べ物が豊富になるため、こどもの成長に都合が良いのでしょう。

浅い場所で暮らす動物たちもベビーラッシュを迎えつつあり、海は陸より一足先に春本番となりそうです。<情報提供：岩ダイビングセンター>

真鶴の海況

海水温は昨年並み やっぱり暖冬

先月の海水温は過去10年の平均から2.4℃も高い16.1℃でしたが、今月も海水温は下がらず、16.1℃のままでした。この値は、暖冬だった昨年3月と同じ値です。ここ10年間の3月の平均海水温は14.5℃ですので、現在は非常に高い状態が続いています。今シーズンはこれ以降に海水温が下がることは期待できません。年間最低水温が高かったことが、今後どのような影響を及ぼすか注目したいと思います。<情報提供：横浜国立大学臨海環境センター>



真鶴の漁獲情報

水揚げにも春の気配

2月は例年にもまして水揚げ量が少ない日が続きましたが、3月になり時折スルメイカなどが獲れはじめ、他にもイシダイやヒラメ、さらにブリが水揚げされるようになりました。ブリは3月16日に340本も獲れたそうです。さらに、サワラ、イワシ、ハナダイ、カイワリやアンコウなど、春を告げる魚が水揚げされています。

今回ご紹介するのはキアンコウです。このキアンコウ、一般的には「あんこう」や「本あんこう」という名前で流通しています。ちなみに、標準和名でアンコウと名付けられている魚は、市場では「くつあんこう」と呼ばれています。キアンコウは、真鶴では春先にしばしば水揚げされます。普段は深いところで暮らしているのですが、産卵期直前のこの時期になると、定置網や刺し網に入る水深60m程度まで上がってくるそうです。今回はあんこう汁と唐揚げで美味しくいただきました。

<情報提供：真鶴町漁協>



キアンコウ
(通称あんこう)

町立遠藤貝類博物館4月のイベントスケジュール

- 11日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、要予約】
- 25日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、要予約】
- 29日(水/祝) 海のミュージアム「磯の生物観察会」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料、要予約】

【開催中】写真展「知られざる 真鶴の海2020」

町立遠藤貝類博物館、【要入館料、真鶴・湯河原町民無料】
学芸員による見どころ紹介 4日(土) 14:00～

※各イベントの詳細は、町立遠藤貝類博物館HPまたは各ちらしをご覧ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロードができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。